

# 地域に新たな風を吹き込む 地域おこし協力隊へのインタビュー

道内の地域おこし協力隊は、毎年増加し、地域活性化はもとより、地域の担い手確保など、人の流れをつくるきっかけづくりとして定着しています。全道各地で地域に新たな風を吹き込む存在として地域振興の様々な場面で活躍する隊員へのインタビューをシリーズで紹介し、活動を応援します。

## 第三弾

白老町  
地域おこし協力隊  
はるし  
ゆづか  
羽地  
夕夏さん



【プロフィール】  
沖縄県出身。金沢大学を卒業後、都内出版社に勤務。2022年5月から白老町の地域おこし協力隊として活動中。

▼白老町の協力隊となった経緯を教えてください。

幼い頃から本が好きで、大学卒業後は出版社に勤めていました。移住のきっかけは、昨年、白老在住の友人から、「白老町には本屋がない」と聞いたことです。「ちいさな本屋なら自分でもできるかも」と思い立ちました。実は、大学在学中に白老町を訪れたことがあり、自然が豊かで面白い人が多く、居心地の良い場所だと感じていました。そんなご縁のある土地だったからこそ、白老町に地域おこし協力隊として移住することを決めました。

▼現在までの白老町での活動内容について教えてください。

活動開始当初は、町内で物件を借りて書店を開こうと考えていましたが、移住してきたばかりで、なかなか物件が見つかりませんでした。そんな中、町内でカメラ屋を営んでいる方からアドバイスを受け、移動本屋を思いつき、「またたび文庫」として、町内外の様々な場所へ出店することになりました。移動本屋は週5回のペースで、出店場所のお客様の層に合わせて、小説や雑誌、図鑑などの本を100冊ほど持って、町の元隊員が経営しているゲストハウスや、観光協会、古い酒蔵を活用したイベントスペースなど、

様々な場所に出店していました。夏場の土日は洞爺湖町や札幌市にも出店していましたので、昨年の10月まではアクティブに活動していたと思います。

その後は、先輩隊員が町内で使わなくなった物件を見つけてくれたため、最初は改装せずに、マルシェや作家さんのトークイベント、映画鑑賞会などを開催していました。これまでの移動本屋の活動が、広報紙や新聞で取り上げられたこともあり、イベントには町の方にもたくさん参加していただきました。



▲ 昨年のイベントの様子。こちらの建物は、以前町の商店会が事務所として使用しており、現在、内装を改修中。今後は本だけではなく、様々な文化の拠点としていきたいとのこと。

▼手応えを感じていること、やりがいを感じていることを教えてください。

出版社に勤務していた時は、作った本を書店に流すだけで、その本を誰が手に取ったのかも分かりませんでした。しかし今は、人の顔が見える活動ができています。活動を通して、様々

な場所へ、幅広い年齢層の方と直接接することができるので、地域の人の反応を見ながら活動できることが良いと感じています。また、地域の方と連携し、地域内外の店舗を集めたマルシェの開催や、アイヌ文化や漁業文化を発信するイベントができることもやりがいを感じています。

▼任期中や任期終了後にどのような活動をしていきたいか教えてください。

まずは、来年5月のオープンに向けて、この物件の改修を今年中に終わらせ、今以上に「またたび文庫」を知っていただけるようPRしていこうと考えています。オープン後からは、経営面で自立できるようにやっていくだけではなく、さらに幅広いお客様に来ていただけるように、住民の方がどのような本を求めているのか理解を深めていきたいです。将来的には、この「またたび文庫」という場所を多様な文化の混ざり合うスペースにし、白老町の文化をさらに広げていきたいと思っています。



▲ 来年5月のオープンに向け内装工事中（写真下）。上の写真は外観。内装のフローリングには元厚真町地域おこし協力隊員が製材した板を使用。



【プロフィール】

岩見沢市出身。酪農学園大学で野生動物管理学を専攻。卒業後は新潟県粟島浦村の地域おこし協力隊として約120頭のニホンジカを狩猟。2022年5月から岩見沢市の地域おこし協力隊として活動中。



第四弾

岩見沢市  
地域おこし協力隊

藤嶋 裕介さん

▼岩見沢市の協力隊となった経緯を教えてください。

私は岩見沢市出身で、幼少期から昆虫や植物、野生動物、自然に興味がありました。酪農学園大学では野生動物管理学を学び、どうしたら野生動物を適切な数にできるのか、ということに勉強していました。また、在学中に狩猟同好会を立ち上げ、岩見沢市で狩猟をしている原田さん（のちの師匠）と出会い、猟の方法を教えてもらっていました。そうした経験から、大学卒業後は地元で狩猟の仕事がしたいと思っていましたが、当時は岩見沢市で獣害対策人材を採用する予定がなかったため、インターンとして参加していた獣害対策コンサルティング会社の紹介で、新潟県粟島浦村で地域おこし協力隊として獣害対策の武者修行をすることになりました。人口300人ほどの島では、自由なフィールドでシカの生態を研究しながら、島全体の生態系保全のため、3年間で約120頭のニホンジカを捕獲しました。任期終了後、大学在学中に知り合った岩見沢市役所の担当者から後継者として帰ってきてほしいと声をかけられ、地元に戻り、協力隊として活動することになりました。

▼現在の業務内容について教えてください。

農業被害対策の一環として岩見沢市の東部丘陵地域（毛陽町・朝日町等）で狩猟活動を行っています。基本的には鉄砲を使わず、足跡を追ってくりり罠を仕掛けることで狩猟をしています。

農地の近くで鉄砲を使うと怖い思いをする方がいるかもしれないからです。あまり鉄砲を使わないのは、師匠の教えでもあります。

狩猟の様子は見学・体験もでき、札幌市などから野生動物に興味のある若者、親子連れや主婦の方まで幅広い層を受け入れています。最近は解体・加工した鹿肉を市内のホテルや飲食店で取り扱ってもらっています。



▲ヒグマを捕獲する罠を確認している様子。

▼業務に取り組み中で、手応えを感じていること、やりがいを感じていることを教えてください。

今年には特に熊の被害が多かったため、熊対策に力を入れていきましたが、その中で農家の方との交流が生まれ、地域に必要とされていると感じたときはやりがいを感じます。また、商品開発した「エゾシカジンギスカン」を地域の商店で販売しており、売れ行きの報告を受けて、地元の商品として認知されていると思うと嬉しいです。

農家の方との交流や地域のイベントなど、業務以外にもフットワークを軽く参加していくことも大切だと考えています。

▼今後、任期中や任期終了後にどのような活動をしていきたいか教えてください。

食肉の販売を始めたばかりなので、販路拡大をしていきたいです。狩猟については、技術をあげて、被害が拡大している熊対策について、安心して任せてもらえる人材になりたいです。

今後は、岩見沢市を拠点としつつ、他の自治体からも依頼されるような獣害対策を担う会社を作りたいです。捕獲の指導者として罠の技術を発信することで、鳥獣被害が減ってほしいなと思います。

▼協力隊の活動を通して感じている岩見沢市の魅力を教えてください。

活動拠点である岩見沢市の東部丘陵地は、紅葉と夕日がとてもきれいです。市街からも車で20分ほどなので、気軽に遊びにきてもらえる場所として魅力を発信していきたいです。

毛陽町では、同じく市の協力隊員がカフェを営んでおり、エゾシカ肉を使ったパイを提供しているので、ぜひ来ていただきたいです。



▲藤嶋さんの発案で開発され、期間限定で販売されていたヒグマ肉を使ったハンバーガー「ベア・ブラック・バーガー」。獲った獲物をなるべく有効活用するため、様々な活用方法を模索している。



# ほしい情報がきつと見つかる！ 北海道移住に役立つ情報サイト・SNS

## 移住ポータルサイト 「北海道で暮らそう！」

北海道の市町村情報をはじめ、「しごと」や「住まい」など、暮らしに必要な情報をまとめて発信中！



## 北の大地への移住情報 メールマガジン

移住・定住に関するイベントや地域おこし協力隊の募集など、道内市町村の移住関連情報を月2回、隔週木曜日に配信中！



## 北海道移住後の生活費を シミュレーション！

北海道への移住後の生活費ってどのくらい？家賃や光熱費等、生活費のシミュレーションを道内10エリアに分けて掲載中！



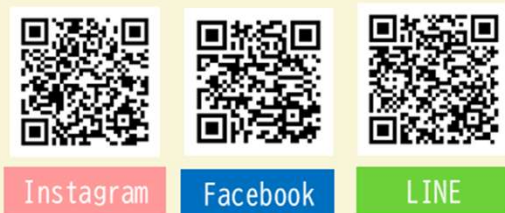
## ドアーズ、ホッカイドウ DOORS, hokkaido

道内各地のイベント、暮らしやコミュニティ、新しい「かかわり方」を実践する人たちの情報等、北海道の関係人口情報を発信中！



## 北海道とつながるSNS 公式YouTube「移住だべさ！北海道チャンネル」

北海道の移住イベント情報など随時配信中！まずはSNSで、北海道とつながりませんか？



移住PR動画や移住者インタビュー、北海道の仕事や地域でのワーケーション動画など100本以上公開中！



「創る」バックナンバーは、「ほっかいどう応援団会議ポータルサイト」へ

バックナンバーへ

ほっかいどう応援団会議

検索

URL : <https://hkd-ouendankaigi.jp/info/tukuru.html>